

〔取組区分〕

人材確保・育成

〔事業分野〕

内航海運

〔実施主体〕

由良機船（株）

〔対象者〕

学生・自社船員等

「船員」の魅力を広く伝え、併せて自社船員の育成に努めている

～船内の居住スペースを拡大し、インターンシップを受入～

■ 取組の目的・背景

どの業界でも人手不足が言われているが内航船員も然り。船員数が減少している中、特に製造業が強い愛知県では、内航海運業界の認知度の低さや、船舶の労働環境の厳しさから人材確保・育成は年々厳しさを増している。船員教育機関卒業生は取り合いで、計画的に採用することもままならない。

そういった状況を打開するため、自社PRだけでなく、船員という仕事の魅力を広く伝えることで人材確保・育成を図っている。

■ 取組の概要

■ 人材確保の取り組み

① セミナー参加

中部運輸局主催の「めざせ海技者セミナーin静岡」「船員就業セミナーin志摩」「運輸業の魅力発見セミナー」「交通・運輸における女性活躍サミット」などへ参加し、自社のPRと海上の魅力を学生だけでなく、多くの人に知っていただく取組を行っている。また、国立清水海上技術短期大学校で行われた「船員就職セミナー」では、弊社の現役機関長から就職活動を控えた学生たちに船員を志した動機や船舶の運航形態、勤務内容や船内生活、休日の過ごし方などを実体験に基づいて講演を行った。

② キャリア教育講座の講師派遣

愛知県内の小・中・高校のキャリア教育プログラムに積極的に参加し、海や船員の仕事の魅力を伝える職業講話を行い、船員志願者の裾野を広げられるように取り組んでいる。愛知県立三谷水産高等学校でのキャリア教育講座、愛知総合工科高校のキャリア教育プログラムである「夢志（ゆめ）クエスト」では、職業講話に興味を持った生徒達が夏休みを利用してインターンに訪れ、実際の職場を体験する事で船舶の魅力を感じてもらうことができた。（概要別記）

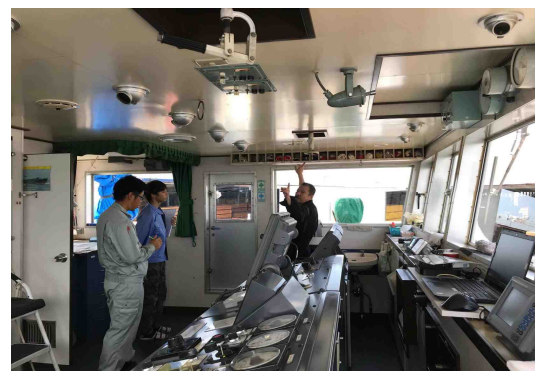


武豊中学校職業講話

③ 就業体験（インターンシップ）の実施

弊社独自の乗船体験や中部運輸局が実施している水産高校生へのインターンシップを受け入れ、国内航海での入出港の見学、操舵室や機関室の機器類の取扱など船員の仕事を体験している。

また、全船個室で、新船「まなか丸」には、女性専用のシャワー室・トイレ・洗濯室を設置し、女子学生も受け入れている。



一般高校生への船内見学

船内の居住スペース拡大・拡充

弊社は749トン型の内航船舶3隻を保有・管理し、ほぼ同型船なため、設備的に大きな変わりはなく、どの船に乗り組んでもスムーズに作業することができる。

3隻ともリプレース前は、499トン、699トンの船舶だったが、インターンシップの受け入れや女性船員の雇用も視野に入れ、完全個室化、法定定員以上の個室を増設、女性専用設備の整備をするなど船内居住スペースの拡大・拡充を図り、船員の居住環境改善に努めている。（居住環境改善船）

■ 船員育成の取り組み

①海技士職員の養成

船員は年齢、性別、学歴不問の業界ですが、海技免状を取得するには乗船履歴をつける必要があります、長い年月が必要です。以前は船員教育機関卒業者を採用する傾向にあったが、2014年頃から異業種からの転職などによる船員未経験者も採用し、海技士免状取得の支援を行っている。（[6級海技士短期養成課程](#)）



機関部・新人研修
安全航海は清掃から

②日本船舶・船員確保計画の認定

国土交通省の支援制度「[日本船舶・船員確保計画](#)」による認定を平成20年度から受け、船員採用計画や訓練計画に沿って船員の確保・育成を図っている。

③研修と勉強会の実施

弊社の船員は、10代から60代まで幅広い年齢の船員が乗船していることから、船員歴30年以上のベテランと若年船員の世代差は否めないこともあり、陸上からの細やかなケアが必要となることも多くある。そのため陸上職員が定期的に訪船し、船内でハラスメント勉強会や、安全衛生ミーティングを開催し、全員で日頃の振り返りや業務知識を身に付ける、ヒヤリハットの抽出をするなど、安全意識を高め、船内融和、ひいては定着率の向上に取り組んでいる。



船内安全衛生ミーティング

■ 取組の効果

- ①キャリア教育講座やインターンシップなどとおして、船員の仕事に興味を持った生徒さんや船乗りを目指すにあたって、より一層向上心が高まったなどの感想があり、多くの学生さんに船員の魅力を伝えることができた。
また、学校や生徒さんとのつながりを強化することができ、今年度は、水産高校生徒1名を採用することとなった。
- ②6級海技士短期養成課程を経て採用した船員の定着率が向上し、更に上級職員を目指す船員もでてきている。
- ③研修・勉強会をとおして、世代間ギャップが少しずつ埋められている。

キャリア教育「夢志（ゆめ）クエスト」概要

愛知県立愛知総合工科高等学校（平成28年4月開校）において、平成30年7月18日（水）に在学1年生を対象としたキャリア教育「夢志（ゆめ）クエスト」が開催されました。

その講座の一つに、中部地方船員対策連絡協議会（会長：寺岡洋一）傘下事業者である由良機船株式会社の八木理恵子運航部長が社会人講師として招聘され、若年内航船員確保対策の一環として内航海運のお話しをされました。

当該者のクラスでは男子21名、女子1名が参加、将来は航空機整備士や海上自衛官、デザイナーなどの夢を持って勉学に励む生徒達も、「船」「船員」という全く未知の世界の話に興味をもち、講師の話に興味津々聞き入っていました。

生徒達は、船は知ってはいてもどのような船があって、どんな仕事をしているのか、そこに働く人はどのような仕事をしているのかなど、漫画のキャラクターや大好きなお菓子などを例に挙げながら、わかりやすく説明を行いました。

出前講座で行ったワークショップの時間には、100年後の船をイメージし、①どんな形をしているのか、②どんな動力や機械（システム）が使われているのか、③船員はどんな働き方をしているのかなど、班分けしたメンバーに課題を与え、各班とも自由な想像力を働かせ、それでいて現在運用されているシステムを使いながら創意工夫したイメージを発表しました。

発表内容としては、

- ・現在とあまり変化はない。
- ・船自体がプラント工場となり、原材料を積み込んで完成品を下ろす。
- ・潜水機能を持たせ、海中を航行する。
- ・球体や流線型になる。
- ・モーターで動かしていて、燃料は水素や原子力。
- ・機械は電気制御されている。
- ・A Iが発達していて、船員はトラブルが起きた際に動く程度で仕事は楽になる。
- ・船がもっと巨大化し、天候に左右されない様に潜水航行できる。
- ・海水から水素を取り出して燃料にする。
- ・ジェット水流で走る。
- ・完全自動運転。他の船を発見したら自動的に避ける。
- ・船員は自動運転を支えるシステムエンジニアになっている。
- ・修理はロボットができるようになっていく。
- ・ブリッジがなくなる。
- ・プロペラがなくなる。



など、工業系を勉強するだけあっての回答内容に講師も驚きを隠せない内容であり、A Iの発達で、船員の仕事はシステムエンジニア化するといった意見がどのグループからも出たことが印象的でした。

最後に、船をもっと知りたいと思う学生から「船をみたい！」という要望も上がるなど、工業高校での船員確保の出前講座に明るい将来が感じられる取り組みとなりました。